

RYOBI

®

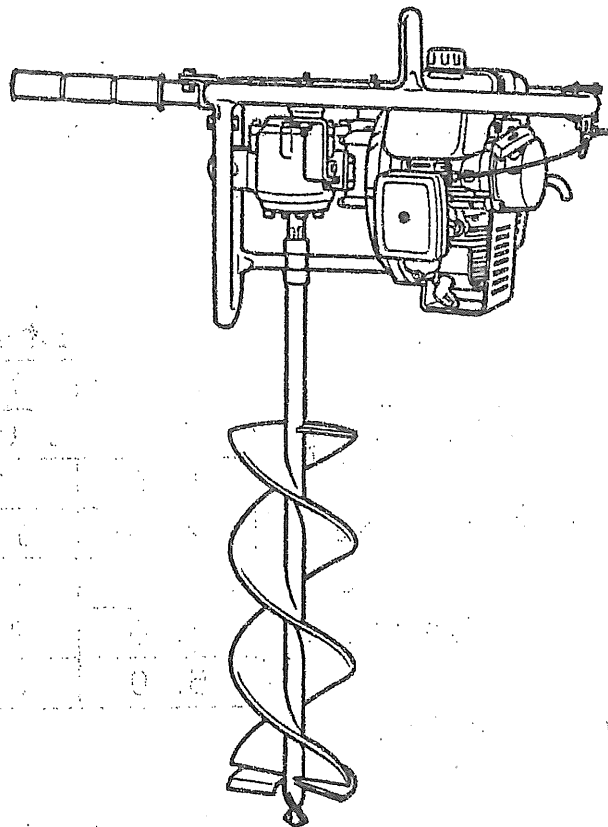
エンジン 穴掘機

T-52C

取扱説明書

このたびは、リョービエンジン穴掘機をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
その後大切に保管いただき、わからないときは、再度お読みください。



●改良のため、お断りなく仕様、外観を変更することがあります。

安全に注意して、正しく

●ご使用前は

- 服装はすそじまりをよくし、目、耳、足の防護具を使用して、防振性のある手袋をはめましょう。
- 説明書をよくお読みください。子供や説明の受けていない人には、運転をさせないようにします。
- 機械各部の点検を行い、ネジ類のゆるみや各部品脱落がないかお確かめください。
- 機械はいつもきれいにしておきましょう。特に燃料タンクの回りはよく拭いておきます。

●ご使用中は

- 足場をかため、身体の安定を保って作業してください。
- 始動時は、ドリルの近くに石や障害物のないことを確認して始動してください。
- 運転中は人を遠ざけ、周囲に充分注意して操作してください。
- 回っているドリルに不用意に手でさわったり、身体や衣服を近付けないでください。
- 作業を中断したり移動するときは、必ずエンジンを停止しておきます。
- 地盤の硬いところや石の多い所での作業では、ドリルの食い込みにより急にハンドルが回転する場合があります。ハンドルは必ずしっかりと両手で保持して作業してください。
また、一気に穴をあけようとせず、途中2、3度土や石を排出させるとともに、ドリルについた土を取り除きながら作業をするようにしてください。
- 掘込み深さはドリルのらせん部分を目安としてください
- ドリルを引き抜くときは、ドリルをゆっくりと回転させ様子を見ながら本機を上へ持ち上げてください。

仕 様

型 式	T-52C		
寸 法	長さ×幅×高さ	mm	660×350×365 (ドリルなし)
重 量		kg	11.3 (ドリルなし)
エンジン	型 式		空冷2サイクル単シリンダ
	排 気 量	cc	51.6
	出 力	PS	2.40
	キャブレタ		フロート
	マグネット		電子点火、フライホイールマグネット
	スパークプラグ		NGK BM-6A
	始 動 方 法		リコイルスタータ
駆 動 部	伝 達 方 式		自動遠心クラッチ、ウォーム & ヘリカルギヤ
	減 速 比		35:1
	ドリル回転速度	rpm	170
	ドリル回転方向		左
燃 料	混 合 比		20~25 : 1 (無鉛ガソリン) (2サイクル専用エンジンオイル)
	タンク容量	ℓ	1.3 (満タン、約50分)

ご使用いただくために

- 万一ドリルが抜けなくなったときは、下記のいずれかの方法で抜いてください。
 - ① エンジンを停止した後ハンドルを保持し、左右前後にゆすりドリルの周囲に空間をつくり、本機を持ち上げてください。
 - ② エンジンを停止した後ドリル部分に付いた土をできるだけ下のほうまで取り除き、再度エンジンを始動しゆっくりとドリルを回しながら本機を持ち上げてください。
- 作業を中断して穴掘機を横にする場合は、燃料コックを **閉** にしてください。中断時間が長いときは、キャブレタ、燃料タンクから燃料を抜いてください。

▶ 燃料について

- 燃料は引火しやすいので注意して取扱いましょう。
- 燃料補給や手入れのときには、絶対にタバコをすったり、火気を近付けないでください。
- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。また、燃料がこぼれた時は充分に拭き取ってください。

▶ ご使用後は

- 機械全体を清掃し、オイル漏れ、ネジ類のゆるみ、部品の脱落がないかなどの点検をしてください。
- ドリルについた土は錆び付きの原因となりますから、きれいに取り除いてください。
- ドリル先端が磨耗していないか点検して下さい。磨耗していたら交換してください。
- 穴掘機を横にして移動したり保管するときは、キャブレタ、燃料タンクから燃料を抜いてください。
- 補用部品は、すべて指定の純正部品をご使用ください。

▶ 常付属品

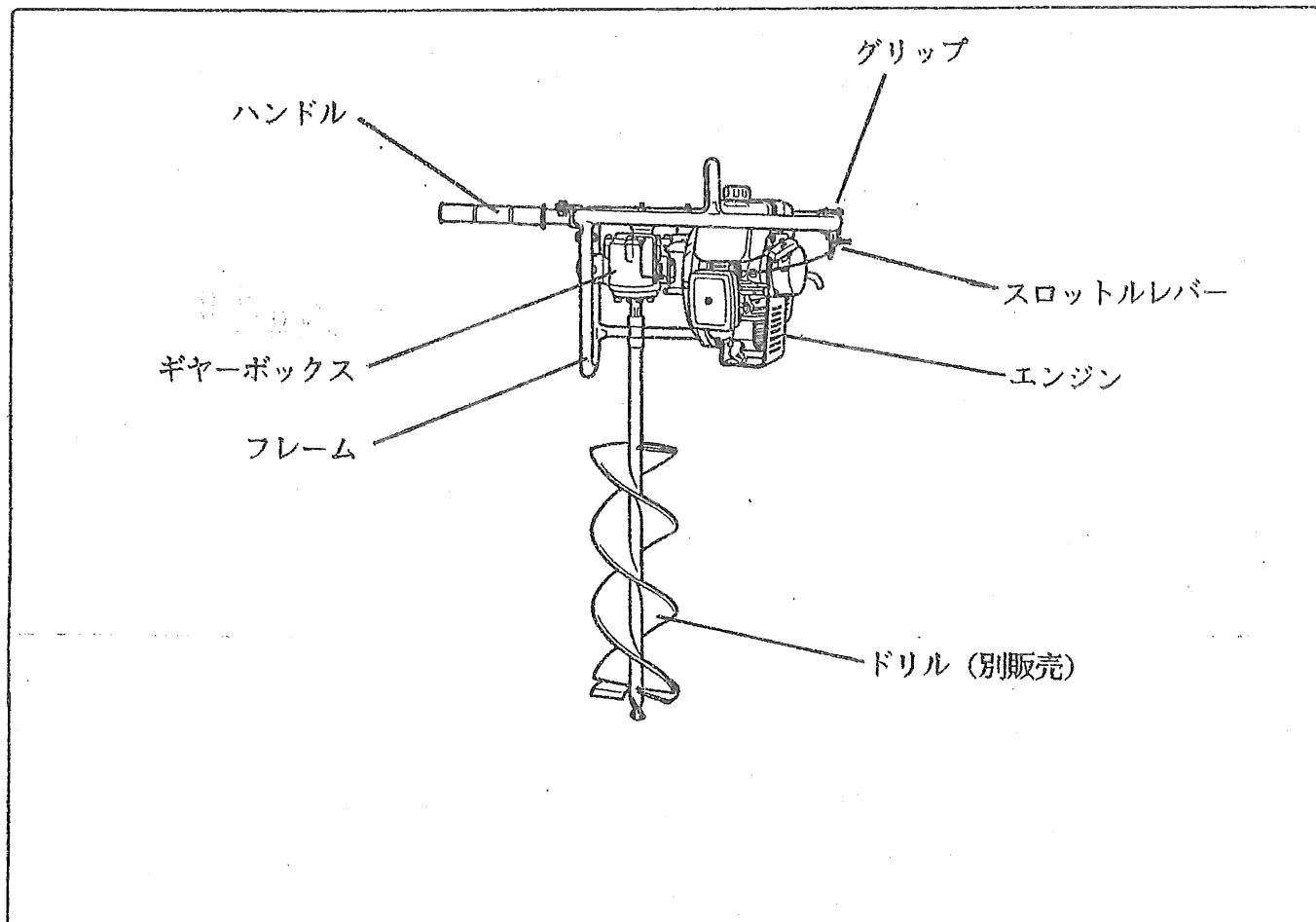
- ④ ドライバー付ソケット
- スパナ

● 特別付属品 (別販売)

- ドリル

外径 (mm)	有効長 (mm)	全長 (mm)
40	490	750
60	510	690
100	460	690
150	420	690
200	450	690

各部のなまえ



運 転

●燃料

- ガソリンと2サイクル専用エンジンオイルを混ぜた混合燃料です。

ガソリン20～25に対し2サイクル専用エンジンオイル1

- 2サイクル専用エンジンオイル、混合比以外の燃料はエンジン不調の原因となりますので使用しないでください
- 4サイクル用のエンジンオイルを誤って使用されますとエンジン焼けの原因となります。

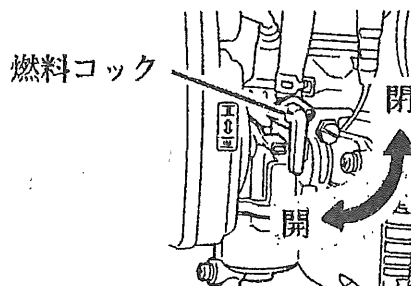
必ず2サイクル専用エンジンオイルを比率に合わせ正しく混合し使用してください。

ガソリンとオイルの混合割合表

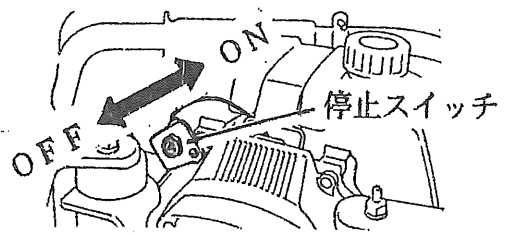
ガソリン (ℓ)	オ イ ル (cc)	
	20 : 1	25 : 1
1.0	50	40
2.0	100	80
3.0	150	120
4.0	200	160
5.0	250	200

●始動

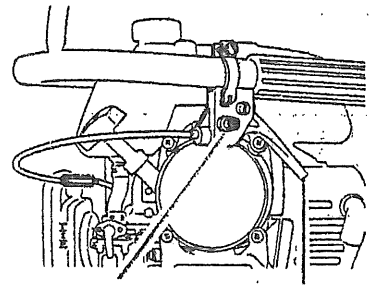
1. 燃料コックを **開** にしてください。



2. 停止スイッチを **ON** にしてください。



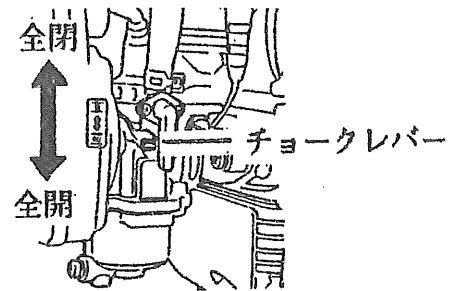
3. エンジンが手でさわられるくらい冷えている時、スロットルレバーを引いた状態にして、ロックボタンを押したままスロットルレバーを放します。ロックボタンは押し込まれたままの状態にロックし、スロットルレバーは少し引かれた状態で固定されます。



ロックボタン スロットルレバー

※4. チョークレバーを **全閉** にしてください。

・エンジンが暖まっているとき（停止後、約15分以内）は、チョークレバーの操作は不要です。



5. リコイルスタータ（ロープ）を、最初の初爆音がするまで素早く引いてください。

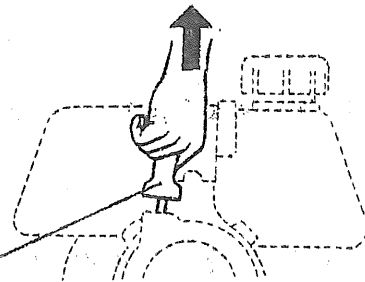
“プルン”とゆう初爆音がします。

〈注意〉

リコイルスタータのロープの全長を確認した後、全長の8割ぐらいで利用するように心掛けてください

素早く引く

リコイルスタータ

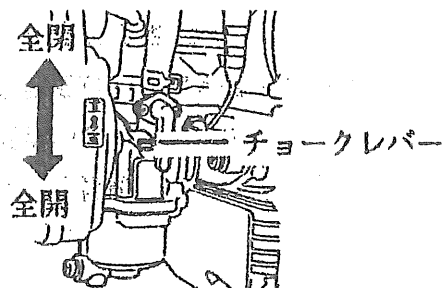


6. チョークレバーを **全開** にしてください。

再度リコイルスタータ（ロープ）を引いてエンジンを始動させます。

〈注意〉

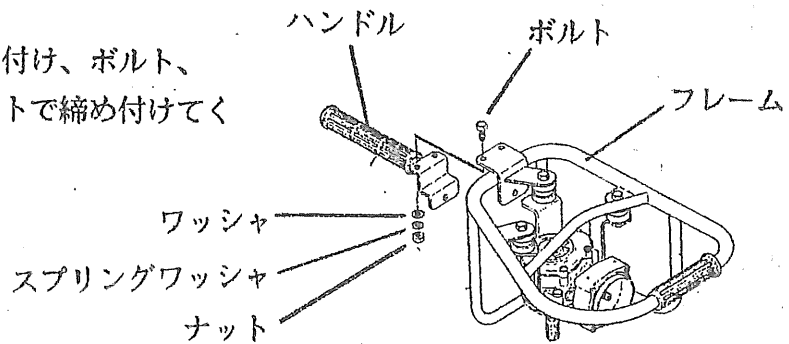
始動しない場合は、「始動」の※印（チョークレバー全開）の項に戻り、再度操作してください。



使用準備

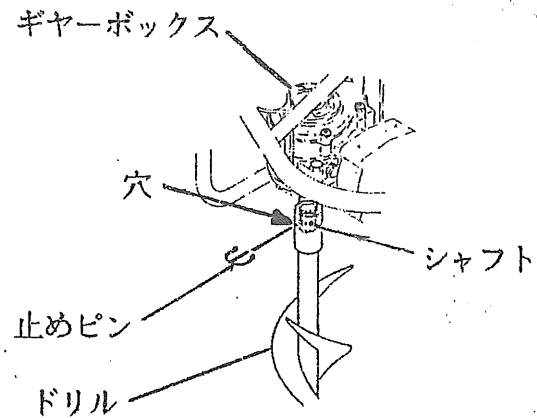
●ハンドルの取り付け

フレームにハンドルを図のように取り付け、ボルト、ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットで締め付けてください。



●ドリルの取り付け

ギヤボックスシャフトの穴とドリルの穴が合う位置で、シャフトにドリルを入れます。
止めピンをドリル穴とシャフト穴に入れ、図のように止めます。



7. エンジンが始動したら、ドリル先端を地面から放し、30秒くらい暖気運転をしてください。
その後、一度スロットルレバーを握り、放してください。
ロックボタンは解除され、アイドル状態となります。

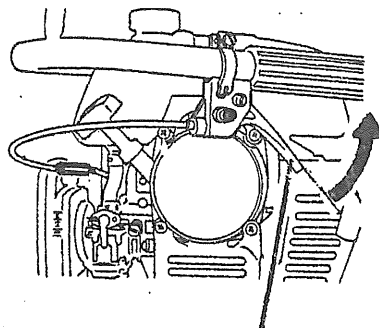
●吸い込み過ぎについて

- 初爆音を聞き逃し、チョークレバーを全閉でリコイルスタータを何度も引いたときは、チョークレバーを全開にし、スロットルレバーを全開にして、リコイルスタータを素早く数回引いてください。
- その場合、初爆音を聞き逃してからリコイルスタータを引いた回数、あるいはその回数の2倍近くの回数を引かないと始動しません。
- 燃料の吸い込み過ぎは回復が大変ですから十分注意してください。

に開き、エンジンの回転を上げていきます。
 作業はスロットルレバー半開以上の中速～高速回転の間
 で行ってください。

〈注意〉

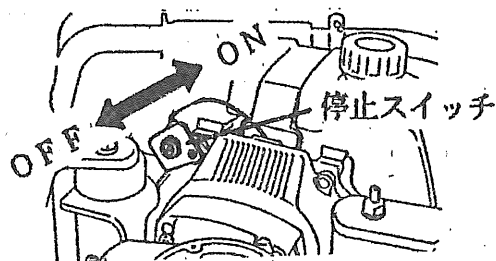
作業しない時は、高速での空回転をさせないでください。



スロットルレバー

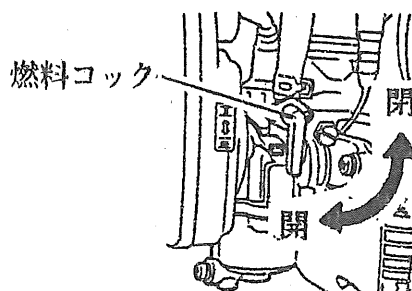
▶停止

- ▶スロットルレバーを戻し、低速回転（アイドリング）をしばらく続け、エンジンを冷やします。
- 次に停止スイッチを **OFF** にします。



停止スイッチ

- ▶燃料コックを **閉** にします。



燃料コック

閉

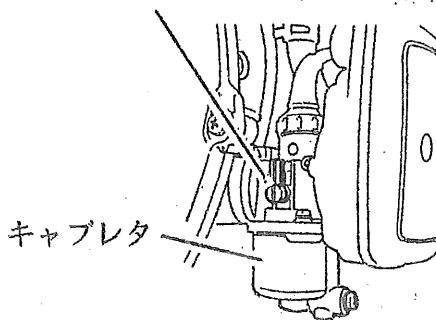
開

エンジンの調整

▶低速回転（アイドリング）の調整

- ▶キャブレタのアイドリング調整スクリュで調整します。
- スクリュを右に回すとアイドリングが高くなり、左に回すとアイドリングが低くなります。
- ▶アイドリングは、エンジンが暖まった状態で低回転がスムーズに行われ、ドリルが回転しないところとします。

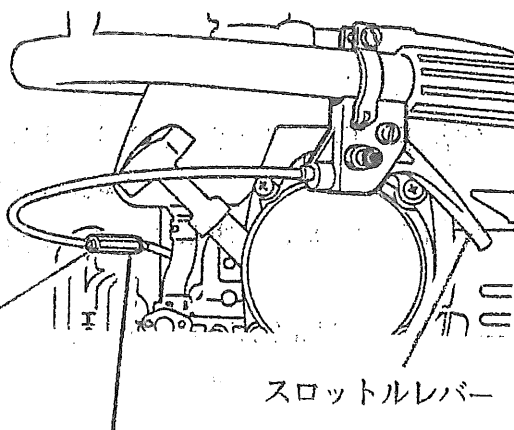
アイドリング調整スクリュ



キャブレタ

▶スロットルレバーの遊び調整

- ▶調整スクリュを回して、スロットルレバーの遊びが1～2mmとなるように調整します。
- ▶ロックナットを占めて固定します。



ロックナット

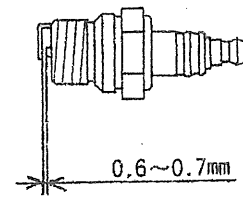
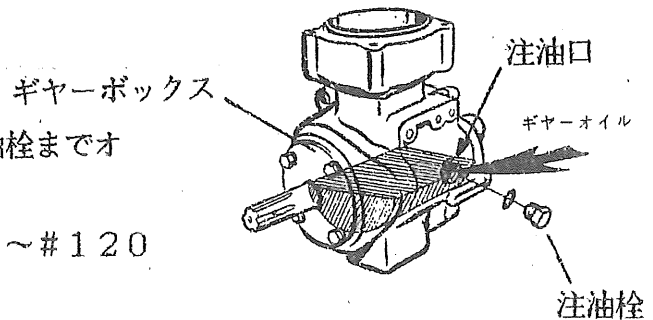
スロットルレバー

調整スクリュ

点検と整備

50時間ごと

- ギヤーオイル
- 図のようにギヤーボックスを水平にして注油栓までオイルが入っているか確認してください。
- オイルが少ない場合は、ギヤーオイル#90～#120を補給してください。
- スパークプラグ [NGK BM-6A]
- スパークプラグの適正な電極間隔は、0.6～0.7 mmです。常に適正な間隔を保ち、カーボンや油などによる汚れに注意して、清掃のうえご使用ください。
- エアークリーナー
- エレメントの汚れを点検して下さい。軽くゴミを払うか、汚れのひどいときはガソリンで洗い、乾いてから使用します。



100時間ごと

- 各締め付け部
- 各締め付け部を点検し、緩んでいるところがあれば増し締めをしてください。
- シリンダ、マフラー
- シリンダやマフラーの出入口にカーボンが付着すると、出力が低下しますので、マフラーをはずして清掃してください。
- 遠心クラッチ
- 遠心クラッチのライニングとドラムに油が付着していないか点検し、オイルの混ざっていないガソリンで拭いてきれいにしてください。

発売元



リョービ販売株式会社

RYOBI



リョービ株式会社

RYOBI